

寺報

令和5年(2023)孟蘭盆会第152号(1)

発行 福島市田沢字寺前18
長秀院・仲興寺

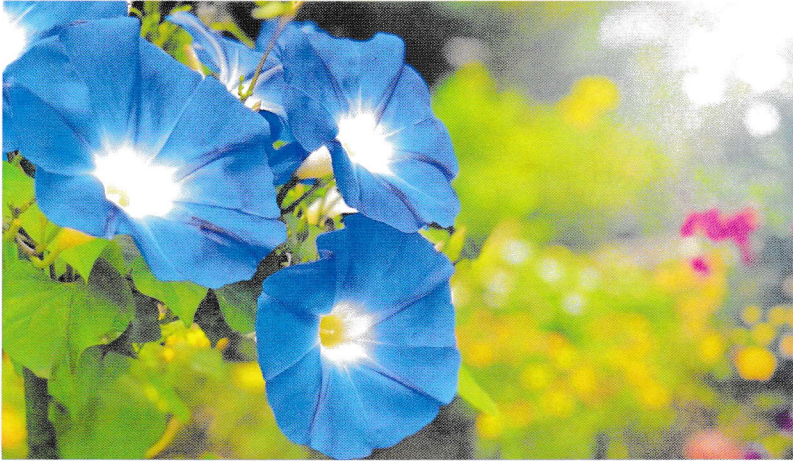
TEL 024(548)1240

FAX 024(573)1202

ホームページ <http://www.choshuin.jp/>

e-mail info@choshuin.jp/

編集責任 渡辺 祥文



— 暑中お見舞申し上げます —

新型コロナウイルス感染症の収束・終息を
心より祈念致します
みな共に笑顔を忘れずにすごしましょう

盂蘭盆会



お盆は正式には、盂蘭盆会といいま
す。略して「お盆」となりました。中
国で作られたお経である「仏説・盂蘭
盆経」が由来とされますが、中国の祖
霊信仰に日本の農耕儀礼が交じり仏教
に取り入れられ、中国と日本で広まり
ました。現在までに約千五百年の歴史
を有すると言われています。

お盆には、亡き人々も、生きている
人々もみな里帰りします。みなが盆棚・
仏壇を中心に集まる懐しく楽しい一時
です。

コロナ禍が完全に終わったわけでは
ありませんが、お盆の大切な一時をみ
なで語り、先祖とわたしたち、そして
生きているものの「絆」をかみしめて
過ごしたいものです。

案内板

本年は、少しずつ従前へ戻
します。ただ不特定多数参加の
行事は慎重に判断いたします。

盆踊り大会(長秀院護持会主催)

まだ新型コロナウイルス感
染症収束とはいえ中止とい
たします。

仏教会主催とろう流し

八月十七日(福島市仏教会主催)

本年は従前通りの法要を
行う予定です。

また、皆様のとろうも申
し受けます。

令和五年 盂蘭盆会

山主 拝

七月十五日現在、新型コ
ロナウイルス感染症「第九
波」の感染が始まったとの
報道があります。

今後とも状況により行事等
についてお知らせ致します。

雲水日記 その十

渡辺 秀憲

七月に入り、暑さも湿気も夏らしくなつてまいりました。皆さん如何お過ごしでしょうか。

前回は雲水日記をお休みして、東日本大震災十三回忌の諸法要についてお伝えしました。今回は前々回に引き続いて、修行僧が一番初めに任される「鐘酒」の生活についてお話しします。

前々回にて、「鐘酒」の鐘は「鐘つき」の鐘、洒は「洒掃」の洒、すなわち掃除を意味し、鐘や鈴などの鳴らし物と掃除を専門にするお役目、と説明しました。

鐘つきのお役目がない時は、基本的に掃除の時間になります。修行僧が寝起きする僧堂(坐禅堂)の中や、お堂の外をひたすら掃除するのです。普段の生活一つ一つが修

行であることを、最初に任されるお役目にて実践し、その生き方を身に着けるのです。

初めの数日こそ、指導役の先輩修行僧を恐れてきびきびと動くのですが、何週間か経つと掃除が少しずつおぎなりになってきます。永平寺は山の中に建てられており、周囲は森に囲まれています。昨日掃いてきれいにした庭も、今日見るともう葉っぱが落ちていくのです。屋内でも、いつしか「この窓の棧をふいたのは何回目だろう?」と無為なことを考えてしまいます。いつしか「あそこ掃いてないけどいいや。どうせ窓から見えにくいし」「ここはふかなくてもばれないでしょ」などと、いかに手を抜くかばかり考えている自分に気づきます。

しかしそうして手を抜いた時ほど、先輩

修行僧に見つかるものです。少し見えにくいお堂の影の葉っぱを見つけ、障子戸の棧に指を滑らせ、「手を抜いたでしょ。やり直し」と無情な(しかし当たり前)通告。当時はなぜばれるのか不思議で仕方ありませんでした。考えてみれば当たり前、先輩たちも手を抜いて、そのまた先輩に見つかつてという、すでに通つてきた道なのでした。

自分の心についての間にか生じる怠惰な心。集団生活の中で、その心をお互いに指摘し合つて、自分たちの修行生活を少しづつ研ぎ澄ませていく。新入り修行僧たちは、鐘酒の生活の中で修行僧としての意識を持たされるのでした。



新型コロナウイルス感染症 第九波と感染防止について



七月十五日の報道等によると新型コロナウイルス感染症は見えなくなってしまうたが感染者数においては増え続けているということ。 (病院来院者数等)

こどもたちや若者に広く感染し比較的軽症といわれていますが、全世代に感染が進むと厳しい状況となってくるだろうと想像しています。ピークが八月との予想が多く、第六回目・七回目のワクチン接種等、アレルギーのない人は真面目に取り組まなければならないのだと思います。

さらに変異株が確認され増えるかもしれないと報道されました。

今後も寺院としての対応をゆるめることなく続けてまいります。感染症法上の分類は第五類となった四年目の夏、人の動きは活発になりました。しかし今のところ、収束・終息は未だ遠いかもしれません。

高齢者等はまだまだ予断を許さないということでしょう。頑張つてまいります。

(住職 拝記)

八月十七日 福島市仏教会主催

「とうろう流し」隈畔で開催

※とうろうの申込みは例年通り、各寺院へ申込みをお願いします。(各自独自のとうろうの持込みはありません。)

令和五年 流灯会

真心を一灯に託して

福島とうろう流し

第40回

花火大会



とき 令和五年 八月十七日(木)

(雨天の場合 八月二十日(日))

ところ 阿武隈川県庁裏隈畔

じかん

午後5時～6時

午後6時30分

午後6時45分

受付

式辞

法要、送り火点火、
万灯供養開始

午後7時15分

午後7時45分

花火打上
花火終了

●とうろうのお申込みについて

当日、受付にて「とうろう」に戒名・法名をお入れしてお分けいたします。二千円(供養料含)

今年の夏の坐禅会



◆7月26日 開催
蓬萊学習センター こども広場

今年は、14名の参加者が坐禅・写経の「心の勉強」につとめました。



福島県宗務所関係行事について

● 本山研修会 (大本山總持寺)

(九月上旬) …… 開催予定

● 梅花流福島県奉詠大会

(十月下旬) …… 開催予定



● 八月五日(土) 午後四時 (※本年も人数制限をいたします)

長秀院孟蘭盆供養会 (総供養・新盆供養を行います)

● 八月十三日(日) 午後四時 (※本年も人数制限をいたします)

仲興寺孟蘭盆供養会 (総供養・新盆供養を行います)

● 八月十三日(日)～十六日(水)

孟蘭盆会

● 八月十五日(火)

長秀院盆踊り大会 (八月十五日の夕べ) …… 中止

● 八月十七日(木)

流灯会とうろう流し (福島市仏教会主催)

おねがい

お盆前後は行事も多く、住職が不在がちになります。種々の相談等でお急ぎの場合は電話またはFAXにてご確認下さい。

電話 〇二四一五四八一二四〇
FAX 〇二四一五七三一二〇二

盂蘭盆会総供養のしおり



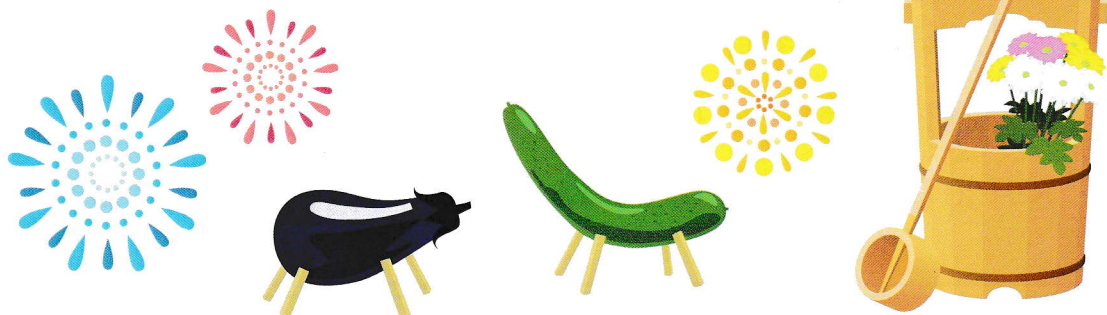
1 お盆の行事

お盆の正式な名称は「盂蘭盆会」と言います。サンスクリット語（古代インド語）の「ウランバーナ」という言葉に由来すると言われていています。やがて「ウランバーナ」が中国において音をまねて「盂蘭盆」という言葉に漢訳され、日本に伝わり、略されて通称「お盆」と言われるようになりました。日本においては特にご先祖方や各精霊が家庭に里帰りされゆっくりと過し、家族親族で供養の誠を尽くし、またお見送りをする時と考えています。

2 新盆のご供養

「新盆」は、当地福島では「あらぼん」と呼びます。そのほか全国的には「にいぼん」「しんぼん」とも言い、また「初盆」とも言います。

亡き精霊がご先祖になり、初めて迎えるお盆であり、特別にねんごろにご供養いたします。ほとけ様の世界から、初めての里帰りと考えての供養です。



3 お盆のご供養の流れと呼び方

*「七月盆」…7月13日から7月16日までが、正式なお盆期間です。東京をはじめ関東を中心に、全国に七月盆の地域があります。別名「新盆（しんぼん）」、全国の2～3割が七月盆です。

*「八月盆」…別名では「旧盆、月遅れのお盆」とも言われます。

農業関係の収穫に由来するとも、また旧暦にあわせてとも、さらに夏休み休暇による帰省に好都合だったから等、諸説ありますが、広く全国で行われています。

大切なときですので、亡き方々に夏の季節のもの、好物をお供えし、心からなる供養をおつとめいたしましょう。

八月盆の流れ

- ・ 8月7日 … 七日盆（なのかぼん）お盆の飾りつけをする
- ・ 8月13日 … 迎盆（むかえぼん）夕方迎え火を軒先で焚き、ご先祖をお迎えする
- ・ 盆中 …… 盆踊り等の行事 盆踊りは先祖を囲んでの行事
- ・ 8月16日 … 送盆（おくりぼん）ご先祖がほとけの世界にお帰りになるので、お見送りをする
- ・ 8月20日 … 二十日盆（はつかぼん）実家に帰ってのお盆行事
- ・ 8月24日 … 地藏盆（じぞうぼん）お地藏様を中心にお盆供養
- ・ 8月30日 … 晦日盆（みそかぼん）収穫等の関係で、遅いお盆

